

研究室便り

歴史民俗学専攻では二〇二二年度は次のような活動を行いました。

1. 亀岡城下町フィールドワーク

四月八日 入学したばかりの新入生がいきなりフィールドワークに投入される歴史民俗学専攻恒例の新入生歓迎行事である。亀岡文化資料館の館長から亀岡の歴史と文化についての話を伺った後、二班にわかれ資料館の学芸員や専攻の上級生のアドバイスを得ながら城下町を探索し、資料館で報告会を行った。

2. スタートアップゼミフィールドワーク

スタートアップゼミ担当の歴史民俗学専攻の四人の教員が、春学期中に一人一回ずつ設定するフィールドワーク。学生は必ず一回は参加し、レポートを提出しなければならない。人気のフィールドワークなので、教員全員のフィールドワークに参加する学生も多い。既に参加した経験を持つ上級生も必ず来るほど、呪術的な魅力のある行事である。

四月 吉村先生担当 東寺・羅城門跡・大極殿跡

五月 堀田先生担当 金剛寺

吉村先生担当 葵祭りと上賀茂社家町

吉村先生担当 嵯峨野・野々宮神社・清涼寺・大覚寺

六月 佐々木先生担当 百鬼夜行フィールドワーク

手塚先生担当 鶴橋コリアタウン

七月 吉村先生担当 高槻市城跡資料館

3. 保津川フィールドワーク

河川環境、筏流し、舟下り、鍛冶屋、山仕事まで含んだ総合的フィールドワーク。本専攻は民俗学の実習調査で全員を投入して生業系のフィールドワークを実施する日本でも数少ない研究室である。

一六月 保津川下り。保津川下りの船頭さんとの共同企画で実施する一回生を対象にしたものである。舟で保津川を下りながら、要所に上陸しゴミを拾う。いかに現代社会が川を大切にしていないかを、体感する瞬間である。その後船頭さんの指導のもと、操船させてもらいながら、川を下る。

九月 保津川筏復活プロジェクト。歴史民俗学専攻もメンバーである京筏組のプロジェクトで、毎年保津川に筏を流している。今年度は保津川下り乗船場向かいの川辺で実施した。専攻では文化資料館と共催で川原に野外ミュージアムを設営し、筏の歴史を展示した他、子どもたちを載せて筏を操ったり、かき氷を振舞ったり、大活躍であった。海外からのお客さんが学生たちの働きぶりを見て、まだまだ日本は大丈夫と言ってくれました。

十一月 十一月三日から十二月九日まで、亀岡市文化資料館で、「道具を作る、道具を使う 職人の民俗誌

3 鍛冶屋さん」が開催された。この展示は文化資料館と歴史民俗学専攻鍛冶屋倶楽部の共同調査の成果によるものである。野鍛冶職人の片井さんに弟子入りしている専攻の学生が、片井さんの所有する鍛冶道具を百点以上精査すると共に、亀岡市内に点在する鍛冶屋跡を探し出し、亀岡における昭和期の鍛冶屋の盛衰を明らかにするなど、学生の地道な調査の成果が博物館の展示に生かされた。

4. 小浜フィールドワーク

今年度は夏のフィールド地を福井県小浜市に設定した。小浜市役所に卒業生の松原君が勤めており、我々のフィールドワークをバックアップしてくれた。夏休み前に二回生は複数のフィールドワークのプランを一回生に提示し、プランごとにグループを作り、8月の末から調査に入り、九月初旬の小浜合宿でその成果を発表する。京都から鯖街道を小浜まで歩くグループがいたり、山村で思わぬ歓待を受けたり、楽しい出会いがあった合宿である。毎年夏の合宿で急速に成長する学生が出現するのがおもしろい。

5. 亀岡祭

秋学期最大のフィールドワーク。十月末に行われる亀岡祭に専攻の学生全員が、準備から後片付けまで参加する。学生は十一ある鉾町に縦割り集団で配属され、世間の厳しさを知る。二回生が運営を取り仕切るが、毎年総大将は大変な重圧と闘わなければならない。今年は複数の鉾町で山鉾の車輪が伝統的なものに変更されたので、迂回しては緊張を強いられた。とはいっても、上回生ともなれば実家に帰ったような気持ちになるら

しく、何人もの卒業生が参加していた。

6. フィールドワーク京都

吉村先生と京都を歩く歴史民俗学専攻のお宝的フィールドワークである。今年度は次のような場所を訪ねた。

- ・源氏物語ミュージアム、宇治十帖古跡、平等院
- ・祇園祭鉦町一帯、八坂神社
- ・三十三間堂、六波羅蜜寺、六波羅探題
- ・二条城、龍大ミュージアム(絵解き)
- ・疎水記念館、南禅寺、哲学の道
- ・御土居跡、北野天満宮

7. 東京シンポジウム

特別招聘教授の小松和彦先生をメインゲストに行うシンポジウムである。東京までシンポジウムを出前するので、専攻あげて準備しなくてはならない。大変ではあるが、民俗学を学ぶ関東の学生と出会うことを楽しんでいる専攻の学生も多い。今年度は「妖怪文化の研究と教育」というテーマで、十一月十一日に東京の目白にある目白ファッションアンドアートカレッジで行った。四回生の小松尚史君が亀岡の伝承を題材に「民間伝承の妖怪・みなづき様」を、四回生の松尾展利君がゲームを題材に「仮想空間の怪異―夕闇通り探検隊」を発

表したほか、佐々木先生が「妖怪文化論」担当八年の経験を元に「大学における妖怪文化研究」について発表された。休憩後、堀田穰先生の司会で、小松和彦先生を中心に、上記のメンバーの他フロアからの参加者も交え、妖怪という存在がこの三〇年間でどのように扱われてきたのかについて、熱のこもった討論を行った。

8. 丹波学トーク

歴史民俗学専攻は生涯学習かめおか財団主催講座「丹波学トーク」に協働し、地域・文化と妖怪について考える市民向け講座を二年間にわたり開催してきた。テーマは「彼らはなぜ生まれたのか、どのように語られ、受け継がれてきたのか？妖怪たちを通して見える、亀岡とは、京都丹波とは」である。実施した講座の概要を以下に示しておこう。

二〇一一年六月十八日(土) 「妖怪文化入門」 佐々木高弘教授

二〇一一年十月二日(日) 「水木しげると妖怪文化」 小松和彦京都学園大学特別招聘客員教授、京極夏彦(小説家)

二〇一一年十一月二十日(日) 「マンガに描かれた妖怪たち」 飯倉義之国際日本文化研究センター機関研究員

二〇一二年三月十一日(日) 「かめおか妖怪の履歴書」 小松尚史(3回生)、新井茉莉安(卒業生)、遠藤勝仁(卒業生)、西村明弘(卒業生)、佐々木高弘教授

二〇一二年六月十六日(土) 「怪談&トーク」 怪談社・紗那、紙舞、松尾(4回生)、森本(4回生)、田中丸(3回生)、藤間(3回生)、堀田穰教授

二〇二二年二月八日(土) 「応挙の幽霊」 笑福亭松五(落語家)、堀田穰教授

二〇二三年二月一七日(日) 「なぜ妖怪か？」 小松和彦京都学園大学特別招聘客員教授・国際日本文化研究センター所長、飯倉義之国際日本文化研究センター機関研究員、佐々木高弘教授、堀田穰教授

9. スピンオフ

専攻の行事ではないが、専攻の卒業生(吉田君、高橋君、梅本君)が、伝統産業の職人さんとコラボレーションした展示「京都伝統工芸×フアッション」を十一月二十三日から十二月九日まで、亀岡市文化資料館で行った。センスある展示でした。